

市民エキストラ通信

発行：和歌山市まちづくり推進室 観光課 発行日：平成 19年 3月28日
〒640-8511 和歌山市七番丁23番地
TEL：073-435-1234 FAX：073-435-1263
E-mail kanko@city.wakayama.lg.jp
<http://www.hall.city.wakayama.wakayama.jp/fc/index.htm>

VOL.4

テレビ東京系時代劇「逃亡者（のがれもの）おりん」の19話、20話のロケが今年1月27日市内各所で行われ、主役のおりん役、青山倫子（あおやま・のりこ）さん始め東映大映像スタッフ総勢40名が和歌山市に來られました。



時代劇「逃亡者（のがれもの）おりん」のロケが和歌山市内で行われました！

ロケは、番所庭園、堀止の武家屋敷、和歌山城岡口門・西の丸広場、磯の浦海水浴場で行われました。当日早朝、京都を出発したスタッフがトラック2台、バン2台に分乗し、9時30分、最初の撮影場所である番所庭園に到着しました。さすがプロといった感じで手早く機材を運び込むと、劇中に差し込む映像をてきぱきと撮影していきます。時代劇にそぐわない工作物なども、ボサという飾り低木で目隠ししていきます。おりんは紀州生まれの設定ですので、おりんが感慨



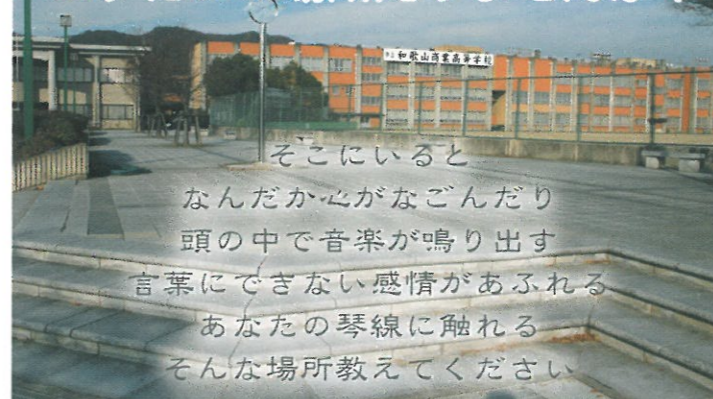
番所庭園撮影風景

を込めた表情で故郷の海を見るシーンや庭園奥にある断崖絶壁の岩場を街道に見立てたシーンなどを撮影しました。

次は、堀止の武家屋敷。紀州藩家老の屋敷という設定です。戦災によって多くの貴重な建物が焼失した和歌山市では、このようなお屋敷は本当に貴重です。持ち主の方が代々大切に保管されてきたからこそできた撮影でした。感謝です。ここでもてきぱきと撮影をこなすスタッフ。わずか10分程度で撮影終了。

次の目的地は、和歌山城。到着が丁度お昼前になりましたので、スタッフ全員、

ロケにいい場所知りませんか？



そこにいると
なんだか心がなごんだり
頭の中で音楽が鳴り出す
言葉にできない感情があふれる
あなたの琴線に触れる
そんな場所教えてください

和歌浦 (小山泰孝さん撮影)



和歌山ビッグホール (橋本佳浩さん撮影)



貴方のおすすめスポット写真を送ってください。

和歌山市のフィルムコミッション事業HP「写真作品の募集」をクリックして和歌山市観光課へメールで添付、または直接郵送してください。

※応募頂いた写真は返却しません。

また、和歌山市は、応募頂いた作品を市の広告・宣伝等を目的として媒体に掲載するなど自由に使用できるものとします。あらかじめご了承の上応募ください。



秋葉山公園 (寺下正さん撮影)

あて先

〒640-8511
和歌山市七番丁23番地
和歌山市役所観光課
「フィルムコミッション担当」まで
<http://www.hall.city.wakayama.wakayama.jp/fc/index.htm>

城内でロケ弁当を食べ、一服です。みなさんお元気あいいとした雰囲気でした。一服後、撮影再スタート。

まずは、**岡口門**。ここでは、鉄砲隊が門から出て行くシーンが撮影されました。その際、岡口門越しに天守閣を写したのですが、天守閣の最上階の展望スペースに人影が写るとまずいとので、登閣されたお客様の了解をいただき、しばらくの間、展望に出ることを控えていただきました。

次は、**西の丸広場**。撮影の合間、メイク中の青山さんを激写。さすが女優です。



おりん役青山倫子さん

天守閣をバックに西の丸広場を城下の往来と設定して撮影を行いました。あの江戸時代っぽくない広場で、セットも設置せずに、どうやって撮影するんだらうか、と興味津々でしたが、さすがプロの仕事です。



磯の浦海水浴場

最後は**磯の浦海水浴場**。東映太秦の殺陣師さんの指導によって、画面が鬼気迫るものになっていきます。しかし、よく見ると、その後ろには、サーファーが...



浜辺を歩くおりん・磯の浦海水浴場

●**放送日などのお知らせ**
「逃亡者おりん」は、毎週木曜テレビ和歌山午後7時からの放送です。和歌山市内ロケが行われた19話、20話は、それぞれ4月12日、4月19日放送の予定です。もし番組を見逃された場合は、DVD上巻（1話〜10話）下巻（11話〜21話）が、それぞれ4月27日、5月25日発売の予定となっておりますので、機会がありましたら、ぜひご覧ください。

和歌山青年会議所 創立50周年記念映画 「心の絆」 「心の絆」 がんばれ中学生!

(社)和歌山青年会議所が創立50周年記念映画「心の絆」制作への取り組みをスタートさせています。中学生を主人公にしたもので、市民エキストラ登録中の中学生2名がエキストラとして出演する予定となっております。

この映画に関しては、和歌山青年会議所が市内中学生を対象にエキストラを募集し、その応募者を対象に、昨年12月17日市役所14階大会議室にて、監督始め制作者、青年会議所の方が審査員となって、エキストラのオーディションが行われました。

その時の感想と映画出演に関する抱負を市民エキストラ登録中の中学生、南陽子さんと田中沙希子さんに伺いました。

お二人とも、オーディションには、緊張せずに自然体で望めたそうで、「自然



オーディション風景

体で演技ができればいいな」と語ってくれました。

その後今年に入った2月3日、出演する中学生と監督を含めた制作者との全体の顔合わせがありました。

監督からは、中学生へ、「舞台が中学校なので、本当のクラスメイトでなかった人同士が、クラスメイトの雰囲気を出さないといけない、今のうちに出演者同士積極的にコミュニケーションを取るように！」と指示がなされました。

スクリーンには、そこにある雰囲気そのまま出してしまうからです。さらに、監督含め関係者

から、映画という1つの作品を作るに当たって、「全員が、いい映画にするんだ」という気持ちを共有できなると、満足のいくものではないかなんだよ。」という呼び掛けがされました。

出演者の皆さんは、その後積極的にコミュニケーションを取り合っていました。



エキストラ仲間と田中さん(右端)

みんないい顔しています。今後の活躍に期待です。

あとかき 市民エキストラ 登録中のみなさまへ

この一年、市民エキストラへの出演依頼があまりありませんでした。しかし、出番は、突然訪れるかもしれません。そのときは、みなさん、出演よろしくお願いしますね。撮影現場でお会いできることを楽しみにしています。

今、邦画が人気です!

昨年邦画の配給収入が、洋画を21年振りに上回りました。わずか4年前には、邦画収入は、映画全体の30%を割るほど低迷していました。公開本数の面から見ても洋画を上回るとともに、90年代前半に底を打ったスクリーン数も増え続けており、邦画を取り巻く状況は活況を呈しています。(社)日本映画製作者連盟調べ

映画界全体としては、公開本数の増加率がスクリーンの増加率を上回っているため、単純計算すると、一本当たりの上映期間は、短くなってしまっています。

また、スクリーンの中でも、シネコンが急速に増加していますが、シネコンでは、興行収入が見込みやすい大作やマスコミへの露出が多い話題作が画一的に上映リストに並ぶ傾向がありますので、その他の映画は残りのスクリーンを取り合うこととなります。

大作でない、話題作でない映画は、上映できるスクリーン数が少なく、上映できても、初めから上映期間が短く、早い段階で興行収入を上げることができなければ、上映期間の延長もな

く、その他のスクリーンに拡大上映する機会もなく終わってしまいます。

そして、これはロケ誘致によって知名度やイメージアップを図ろうとするフィルムコミッションの側から見れば、ロケ誘致に成功したとしても、シネコンなどで上映されるような映画でない限り、その上映期間・場所が限られ、多くの人に観ていただけない結果になってしまいます。

シネコンなどの上映リストに載らない映画を、これまでもミニシアターと呼ばれる小規模映画館が、シネコンなどの差別化を図って上映してきましたが、大手に属さない映画製作者の育成のためにも、映画興行の大手集中を防ぐためにも、今後更にその役割が期待されます。

バランス良く日本の映画産業が成長することを祈ります。